ゆきうさぎ。
性なる魔力でヤリホーダイ!?
色欲×淫魔契約

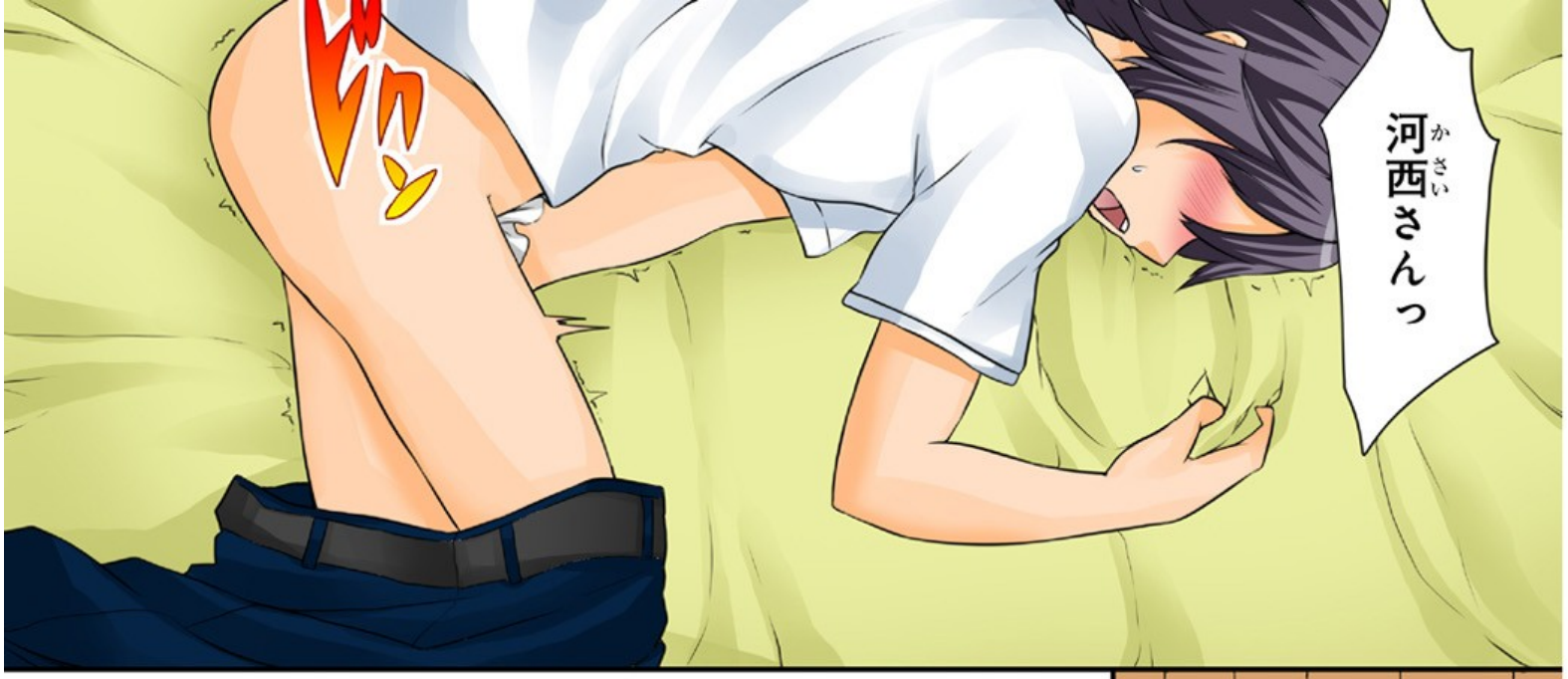
色欲 × 淫魔契約
性なる魔力でヤリホーダイ!?

第１話

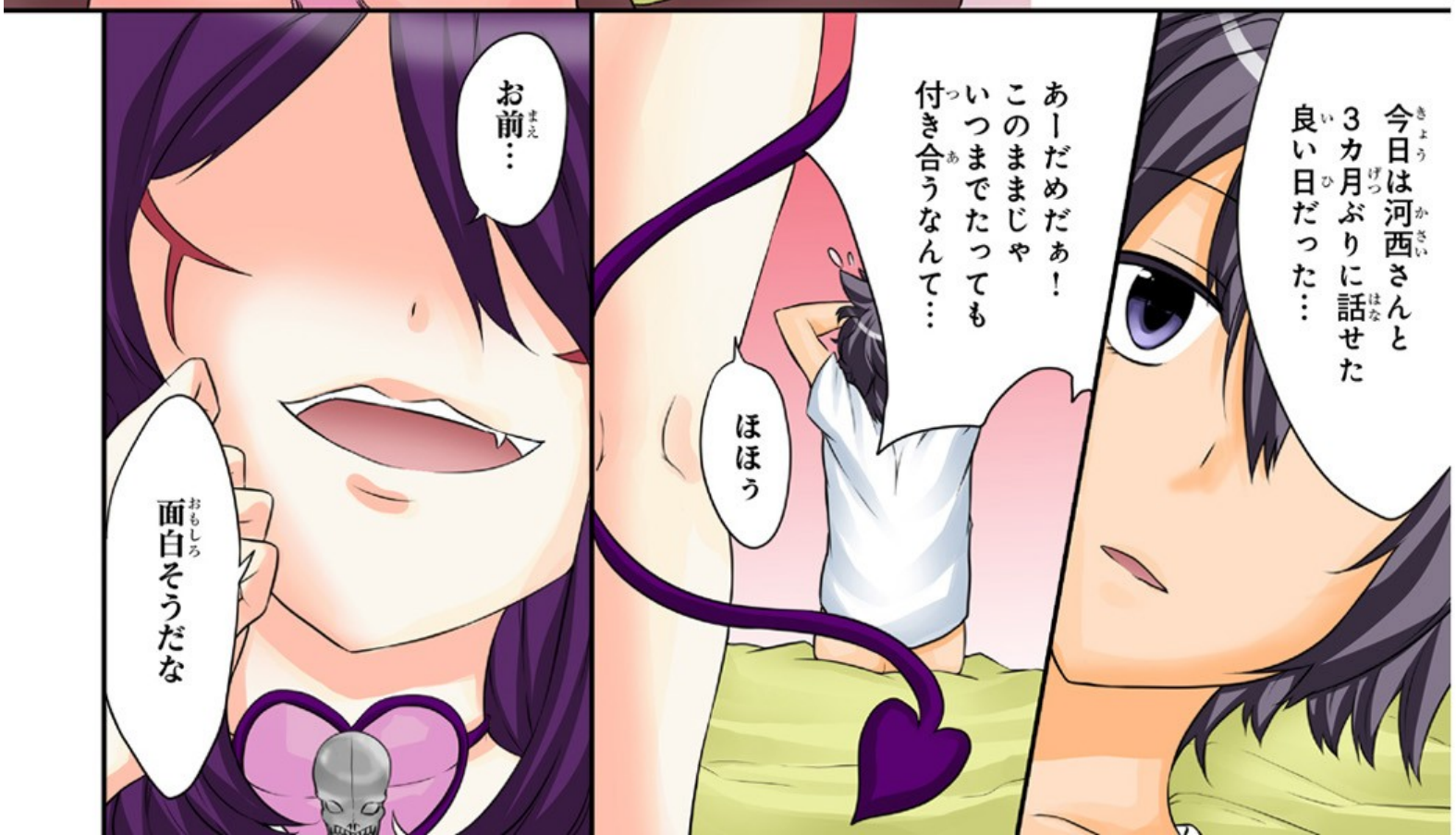
やばい…
やばい！
寝坊した！
僕は皆瀬色
これと言って何のとりえもない
ごく普通の男子校生だ
こんな僕にも夢がある
それは単純に
好きな人と
一緒になること
でもその夢は
叶わない
なぜなら…
今の僕に告白する
勇気なんてないから
やば…！
ゴ
痛っ
きゃっ
しまった…
この子は河西美月
才色兼備で気立てもよい
クラスのアイドル
そして…
僕の片思い相手だ
ごごごっ
ごめんなさい
すぐ拾います
大丈夫です……か
キッ
なあ!?

か…かかかっ
河西さんのパンツが！
パン
わたしこそごめんね
もう大丈夫
拾ってくれてありがとう
わたしはこれを職員室まで届けてくるから
プリントが思ったよりも重たくて
なにやってんだ…
僕は…
「手伝うよ」すら言えないのか
ああぁぁ…
ドゥン
皆瀬くん大丈夫？
あっ
はい！大丈夫です

色自宅
はぁ…
はぁ…
だめ…色くん
そんなにされたら私…
河西さん
河西さん
好きだ
愛してる！
いくっ
僕も…
河西さんとずっと繋がっていたい
だから
いいよ…
中にちょうだい
ああぁっ！
わたしもっ！
色くんともっと繋がっていたい


河西さんっ

はぁ…
もう5回目だぞ
だめだ…
今日のパンツが
頭から離れない


今日は河西さんと
3カ月ぶりに話せた
良い日だった…
あーだめだぁ！
このままじゃ
いつまでたっても
付き合うなんて…
ほほぅ
お前…
面白そうだな

その願い…
……？
わたしの力なら
叶えてやれるぞ
はぁ？
羽…？
角…？
しっぽ……？
でたぁぁぁ！
？

変態コスプレイヤーだ
絶対やばいやつじゃん

早く警察に！

どこに行く？

むんぐっ!?

にゅ

なぜ逃げる？

わたしはお前の想いを叶えてやると言っておるのだ

「性交魔術」でな！

んん…

セク…

なんだって？

この力があれば
どんな女も思いのまま

たとえそれが
クラスのアイドル

河西美月だとしても

なっ？

こいつ…
河西さんのことを

いいのか？

その想い
夢のまま終わらせても
僕の夢…
河西さんと一緒にいたい
付き合ってデートして
いずれ結婚して子供が出来て
幸せな家庭を築きたい
夢で終わらせたくない
プッ
ガキか
まあよい
お前に力を貸してやる
何してんだよ
何って
まさかお前
タダで貸してもらえるとでも思ったのか？
ポッ
うるせえないいだろ
これから契約の儀式を始める
さあお前の好きに犯すがよい

ちょっと待てって
どういうことなんだよ
だから儀式だと言っておるだろ
力を授けるには わたしがお前に憑依して 一つにならなきゃならない
そのために お互いの感情をリンクさせる
ひょ…憑依？
どうだ？ 初めてみる生ま●こは？
もうすぐにでもいれたいんだろ？
これが…本物のま●こ
ほら あまりレディを待たせるでない
やばい…
さっき5回も出したのに
この欲望だらだらの淫乱チ●ポ
ああ
しょうがないやつだな
わたしがリードしてやろう
いれるぞ
いくぞ童貞！
ほら
身体は正直じゃないか
あっ
わたしの中にいれたいんだろ？
ちょっと
待って
心の準備が
あ…
あああっ…

あぁ…
久しぶりの人間チ●ポだ
中で脈打っておるぞ
ああ…
なんだこれ?
これがおま●この…
どうだ初めての女の中は?
温かくて締め付けられて…
すげぇ気持ちいい
動くぞ
待って今は!
つべこべ言うなお前はただ自分の欲求に従えばいい
ほら
ほら
だめぇ
気持ち良すぎて僕もう…
これがセックス
オ●ニーなんかと
全然違う
イクっ…
ダーメっ勝手にいくのは許さないぞ
あれ?イけない…
何だこれ!?
これだから童貞君は
一緒じゃないと意味ないだろ
イかせて
もうだからダメだって
お願いイかせてぇ
ああ…
可愛い
そんなお前にプレゼントだ

ほら
お前の好きなようにしていいぞ
おっぱい…
あっ
乳首いい
いいぞぉ
こいつ！舐めやがって
あっ
ああぁ！
んっ
ああ
あぁ！
そんなに好きかいいぞもっと味わえ
んっ
んっ

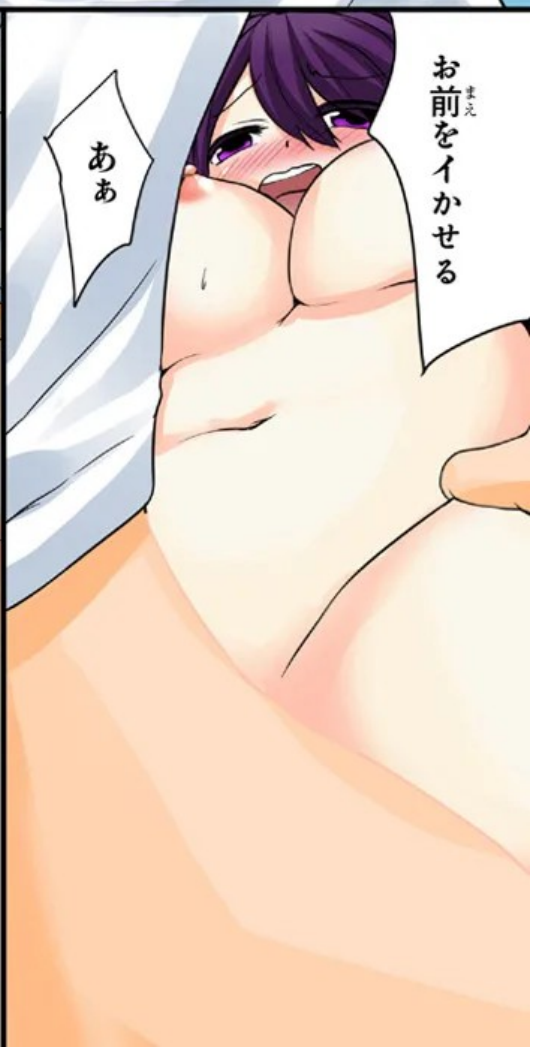
僕は河西さんと一緒になりたい

やっとその気になったか
いいぞ…もう一度いれてみろ
はぁ…
はぁ…

だから…
絶対に！

流石は童貞君だ
うるさい仕方ないだろ
もっと欲を開放しろ
お前の持つ色欲すべてをわたしにぶつけてみろ

こんな感じか？
どうだ


お前をイかせる
あぁ

おおお！
言いたい放題
言いやがって
あっ
いい
いいぞ
ああっ
もっと
もっと来い
ぐぅ
限界だぁ
イってくれ
早くイかせて
くれ！
あっ
あん
あんっ！
いいだろう
わたしの中に
すべてをぶちまけろ

来たぁ！
ああ…
人間の精液
おま●こで
あふれて
るぅぅ!!
す…すげぇ
我慢してた分
快感がやばい
止まらない
まだ出てる
力が抜ける…
しら、

おめでとう
お前は合格だ
テクニックは
まったくだが
勢いはよかった
はぁ…
はぁ…
はぁ…
約束通り
力を貸してやる
好きに
使うがいい
あっ
ちょっと待てよ
まだ僕
お前のこと
何も知らない
お前は何者
なんだ？
そうか
言って
なかったな

教えてやろう
お前には知る権利がある
わたしは人間の色欲に関するデータを集めるため
この地に降りた
わたしの名は…
アスモディウス
ズゥン
色欲を司る
本物の悪魔だ

こんなに学校に行くのが楽しみだったのは初めてだ…
あんな人うちのクラスにいたっけ？
あれ？
あそこって皆瀬くんの席じゃない？
さっそく女たちが僕の噂を…
これが媚薬効果か
行動を起こすのは目だたないように放課後まで待つ
頼むぞアスモディウス

6限「数学」
今日はこの問題だ
ほら
コイツが解けるやつおらんのか？
数学教師 矢後
このクラスは勉強が足りん
お前らこんなのもできんようじゃ補習だな
でたよ矢後の生徒いじめ
あれT大クラスじゃね？
はい
うぅ…っ

か…河西くん
すげぇ
また河西さんだ
まじで
こんなのも
できちゃうの？
な…
なんですとぉ
出来ました
せ…正解だ…
うおおおぉ
すげぇ
やった！
やっぱ河西さん
すげぇよ
矢後ざまぁ
ありがとう
河西さん
おのれ…
いつもわたしの
邪魔を…
河西くん
はい
ちょっと
いいかな

あの問題を解いちゃうなんて先生驚いたよ
君は本当に優秀な生徒だ
どうしたんですか先生？
わたしは感動したんだ
あんな難問を解いた君には特別なご褒美をあげないとな
なんですか？
それは後のお楽しみついてきなさい
ちょ ちょっと
いいかい このことはくれぐれも内緒にするように
先生 待ってください
そう…とびっきりのご褒美をな
矢後の奴！ 河西さんいっちゃったじゃん！
でもまぁ鞄あるし帰ってくるか
焦ってもしょうがないここで待…
助けて…
なんだ…頭の中に！

性交魔術
簡単に言えば
セックスの技術が向上し
異性を思い通りにできる
身体から特殊な
フェロモンを分泌し
近くにいるだけで
魅力的に見えてしまう
それと
もう一つ
まだ何か
あるのか
契約者の愛の形に
よってオリジナルの
能力が宿る
発動すれば
すぐわかるさ
うぅ…
頭痛が…
これが…俺の
オリジナル能力？
始まったか
さて…
皆瀬色
何だこれ？
…けて
頭の中にイメージが
…れか
これは
…めて
！
だれか助けて…！
河西さんが
危ない!?
お前の愛とやら
みせてもらうぞ

さあ
入りたまえ
体育倉庫
あの…先生
なんで体育倉庫なんですか？
ん？
ご褒美って…
きっと河西くんも大好きなものだよ
先生？
鍵なんて
どうして？
え？
そんなの決まってるじゃない
ばれたらまずいでしょ
こんなこと
…え？
さぁ
先生が気持ちいいことたくさん教えてあげるからね
いやぁぁ

だれか！
助けて！
だれかぁ
そんなに叫んでも無駄だよ
いやぁ
ここは校舎から離れているから
つまり…
隣の体育館は今まさに部活動の真っ最中
僕たちを邪魔するやつはひとりもいない
いやぁ！
気持ち悪い！
大丈夫…やさしくするから
離して！
ダメエ！
服が邪魔だよね
先生に見せてよ美月ちゃんのおっぱい
いやぁぁ
まったく…頭もよくて胸も大きいけしからん子だな

はぁ
やめて
はぁ
はぁ
舐めちゃダメ
気持ち悪い
ほらパンティ
おろしてあげるね
嫌っ
そこはダメ
おねがい！
いらない
そんなの
いらない
やめて
ほら
お楽しみの
ご褒美だ
おとなしく
うけとれ
あ
いやぁ

あっ…
あれ？
いいのかよ
教師がこんなことして
おれがチクればてめぇの
人生なんて簡単に
終わらせられるぞ
……
皆瀬…くん？
いいか
一度しか言わねェ
からよく聞け
さっさとこの町から
出ていくんだ
わかったら
さっさと消えろ
二度とその汚い顔を
美月に見せんじゃねぇぞ
いいな

うわぁぁぁ！
あ…あの
ありがとうございます
えーと
その
皆瀬くん…なの？
ああ
大丈夫かい？
あっ…はい
無事でよかったホントに
えっ…あ…あの
どうしてここが分かったか？
うん…
簡単だよ
助けてって君が言ったから

皆瀬くん…
わたし怖かった
目を閉じて
もう
怖くない
おれがいる
ちゅぷ
ちゅぷ
ちゅぱ
皆瀬くん…
わたし変なの
身体中が熱くて
止まらないの
ドクン
すげぇ
つい昨日まで
夢物語だったのに
その…
皆瀬くんとなら
わたし…
河西さんが
おれを求めてる
愛情ねぇ…
こんな近くに
河西さんがいる
色欲を超える
愛情なんてありえない

お前は色欲に勝てるのか？
色
おれもだよ
いける
おれも美月とひとつになりたい
この力があれば河西さんとヤれる
いいかい？
あっ
でもわたしこんなこと初めてだから…その
大丈夫
全部おれがリードする
やさしくする
すごい…完全に思い通りだ
なんと言えばいいのかも手に取るように分かる
けど今は
あんなことの後だしまだ美月が震えてることも知ってる
おれを信じてくれないか？
ドキ

はずすよ
バサ
きれいだよ 美月
は…恥ずかしい
あっ そこ
河西さんのおっぱい やわらけぇ～～～
だめぇ
あっ そんなとこ あっ
どこで彼女が感じるのかもすべて分かる
ああっ
きゃっ
ああ… 早く河西さんの ま●こに いれたい！

もう大丈夫だな
う…うん
じゃあ挿れるぞ
うん…
こんなに早く
夢が叶って
しまうなんて
なぁ!?
もう充分だ
皆瀬色
え…?
お前は
不合格だ
じゃあな
やさしくする
いいよ…
きて
ついに河西さんと
ヤれるんだ!

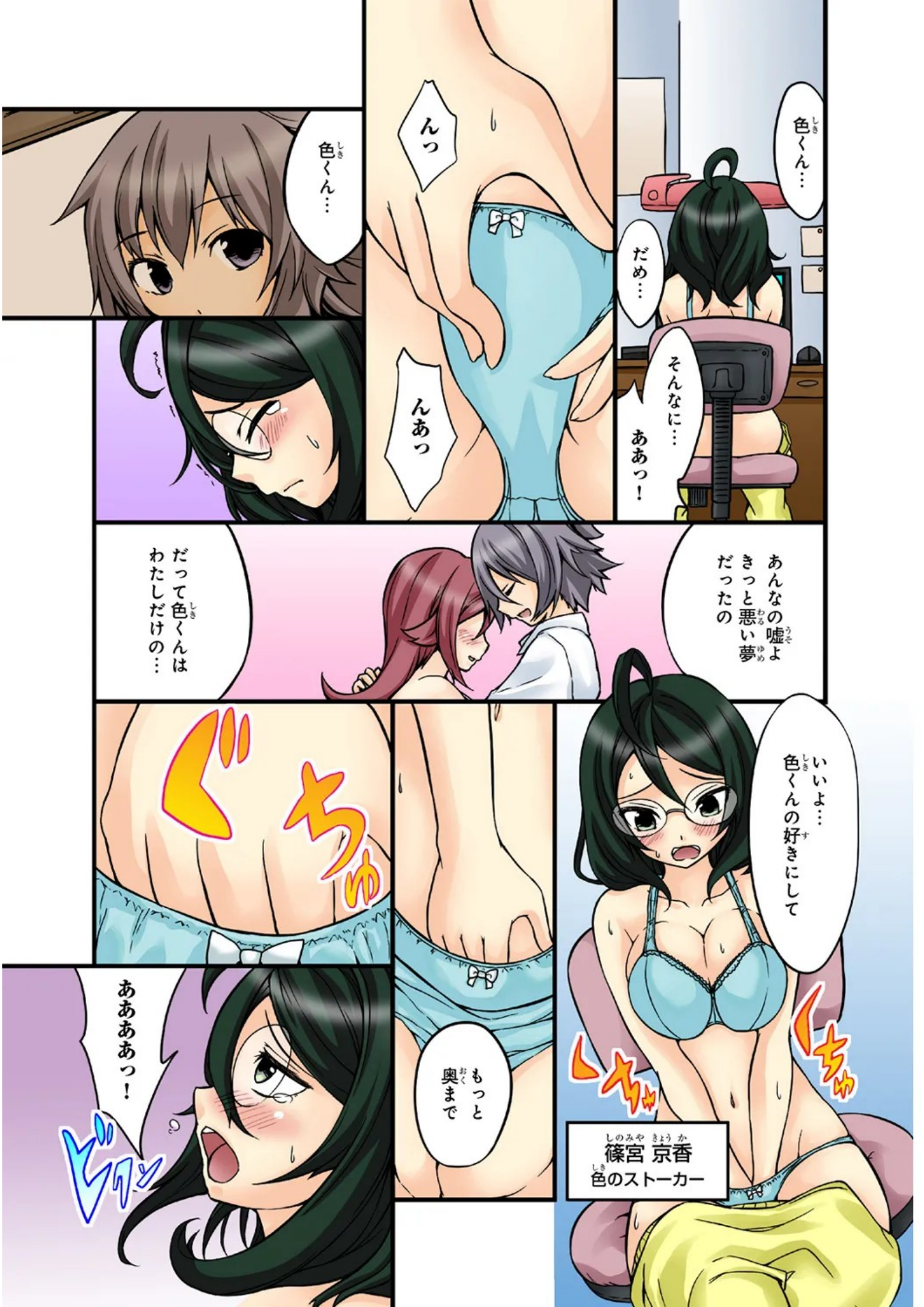
ちょっと待って
きゃあ
えっ
ちょっと
河西さん？
しまった
フェロモンが
きれたか？
うぐっ
変態！
な…なんで
うわっ
あっけな…
皆瀬色
いいデータが
取れると
思ったのにな

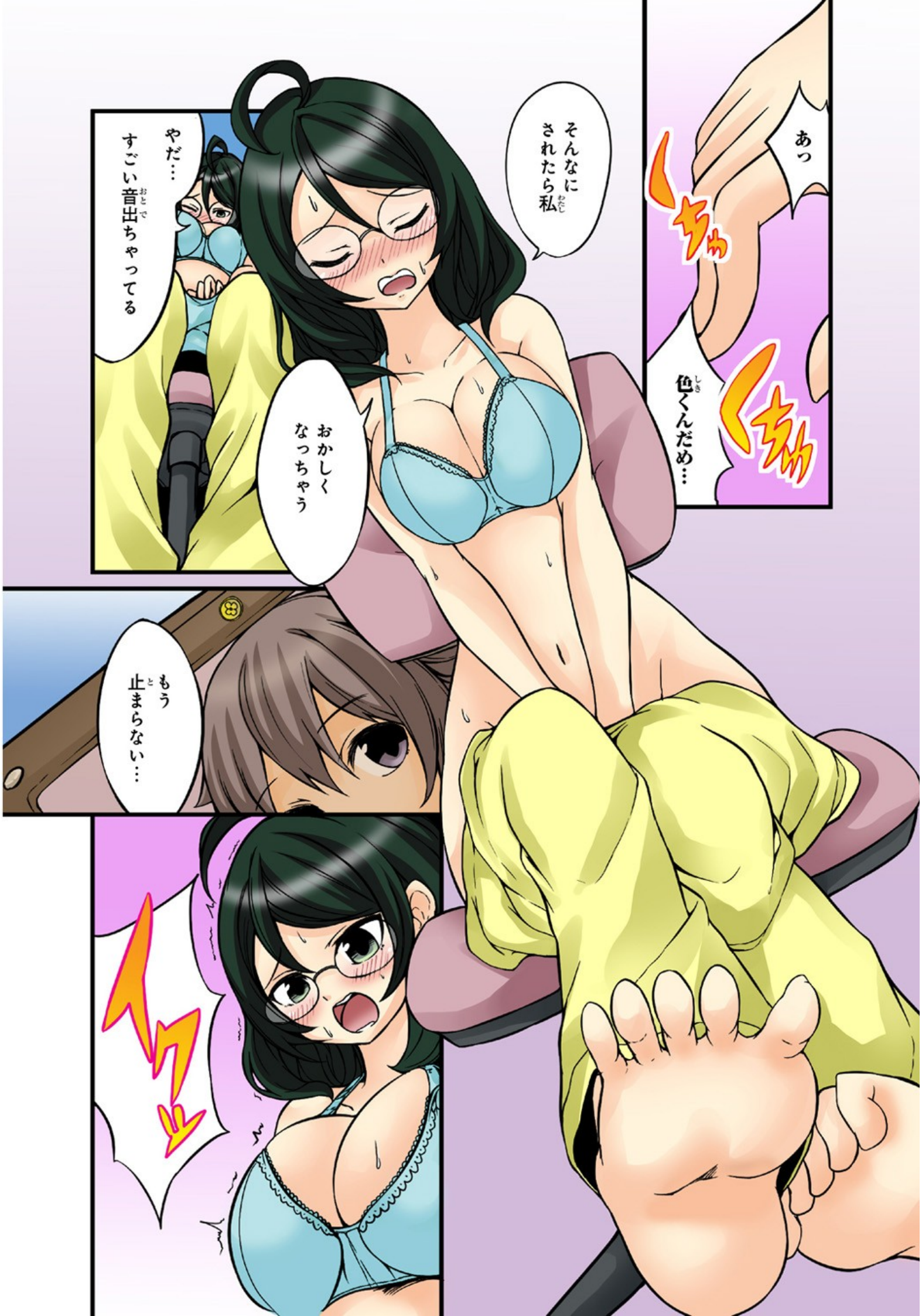
まあ
当然の結果か
やっぱり愛情
なんてもんは
幻想にすぎない
人間も生き物である以上
欲求にはかてないってことだ
愛ねぇ…
わたしたち悪魔には
まったく理解できないよ…
ん？
あれは？
し…し…
し…しし
色くんが…
わたしの
色くんが…
わたし以外の
女と…
嘘よ…
バサ
こんなの
全部嘘…

ん？
ぺら
なんだこれ？
おいおい
盗撮かよ…
へぇ
しかしこれは
思わぬ拾い物を
したかもな
気が
変わった
皆瀬色
もう一回だけ
チャンスをやる
河西美月と付き合う
最後のチャンス
さて…
どう転ぶかな
面白いデータを
期待してるぞ
皆瀬くんの
バカ！

色欲 × 淫魔契約
性なる魔力でヤリホーダイ!?

第２話


色くん…
だめ…
そんなに…
ああっ！
んっ
んあっ
色くん…
あんなの嘘よ
きっと悪い夢
だったの
だって色くんは
わたしだけの…
いいよ…
色くんの好きにして
ぐちゅ
もっと
奥まで
ああああっ！
ビクン
篠宮 京香
色のストーカー


あっ
くちゅ
色くんだめ…
くちゅ
そんなにされたら私
やだ…すごい音出ちゃってる
おかしくなっちゃう
もう止まらない…
イクッ

はぁ…
もっと
刺激を…
はぁ…
はぁ…
色くんの
大きい…
色くん…
来て…
ん…
んんっ！
ああああ！
すごい…
んんんっ！

色くんの太いのが私の中かき回してる
こっちも…
もう我慢できない
色くんのためにこんなに大きくなったんだよ
色くんの好きなようにおっぱいいじめて
ああ！
激しいよ
あぁ…
あああ！
はぁ…
イッちゃうまたイクッ！

イクッ！
ビクン
色くん…
はぁ…
はぁ…
わたしったらまた
一人でこんなこと…
色くん…

こんなに
愛してるのに
わたしが
いるのに…
どうして…
邪魔を
しないで
ビリ
ビリ
河西美月

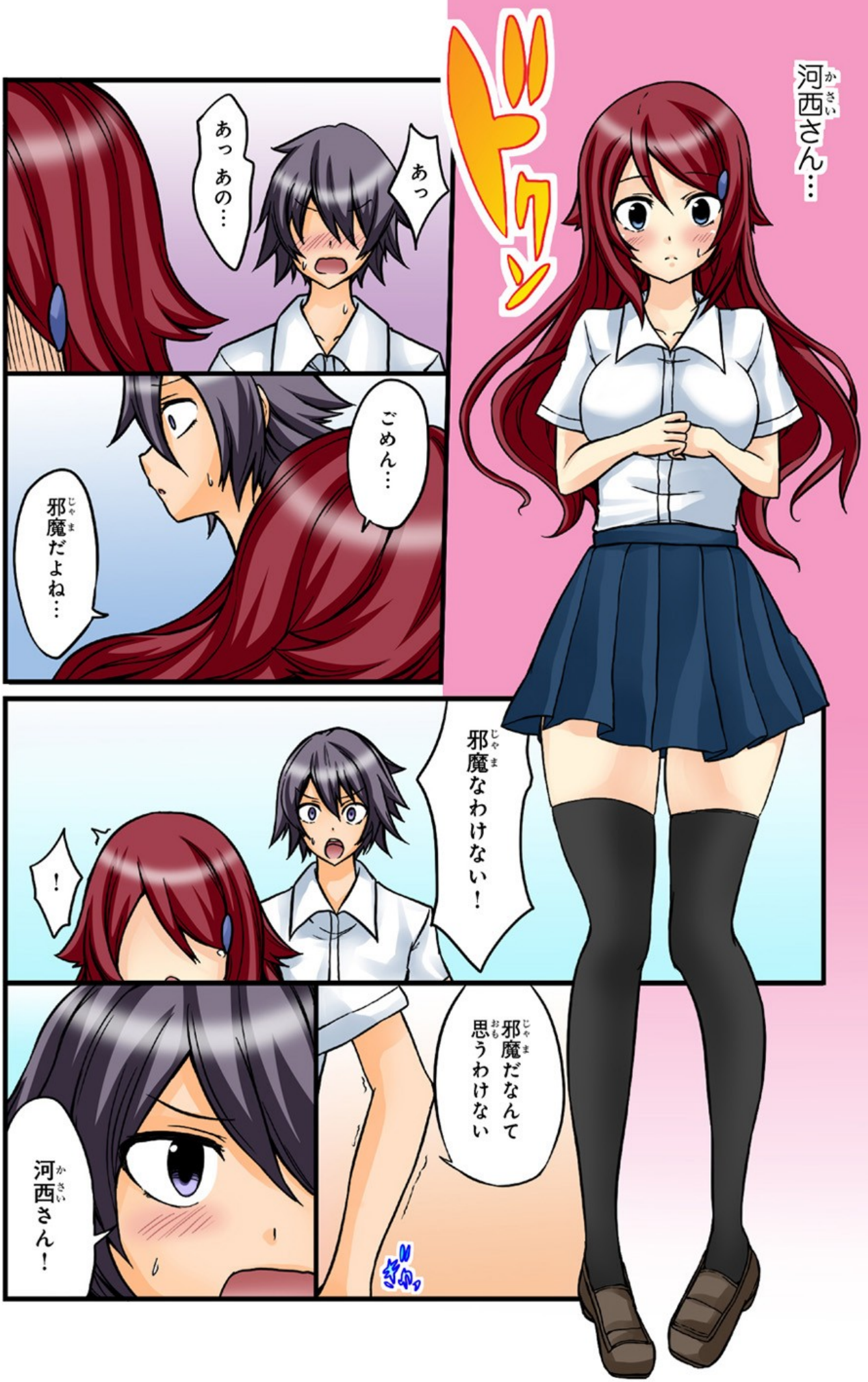
いい想いだ
パッ
それも歴とした愛の形
河西美月に勝ちたいか？
だれ？
嫉妬心
私か…
なーに
通りすがりの悪魔さ
皆瀬色が欲しいんだろ？
私ならその想い
叶えてやれるぞ
ゴクン

ああっ
やめて
イク
イッちゃう
よし
これで準備OK
さて…皆瀬色よ
もう一度訊こう
お前は
色欲に勝てるのか？

こんなに学校に行くのが嫌だったことはない…
なにあれ？死人オーラ出してるんだけど
皆瀬じゃね？
ううう
うわ泣きだした
やばくね？
昨日
きゃあああ
変態！
うぐっ！
あの後あいつも姿を見せないし
河西さんに見せる顔もない
はぁ…
帰りたい…

やばい
遅刻だよ！
2-2
ガラガラ
危ない…
ボーっとしてたら
遅刻するところだった
！
！
河西さん…
だめだ…
何も言えない

昼放課
おばちゃん
やきそばふたつ
180円だよ
いつもありがとね
河西さん…
皆瀬色
お前は
不合格だ
くそっ
河西さんと付き合う
なんて無理だったんだ
！
あんなのに頼った
僕が悪いんじゃないか
一人じゃ何も
できないくせに


河西さん…
ドクン
あっ
あっ あの…
ごめん…
邪魔だよね…
邪魔なわけない！
！
邪魔だなんて
思うわけない
河西さん！

放課後一階の空き教室まで来てください
二人きりで話したいことがある
言えた…言えたぞ
力に頼ってた自分はもう卒業する
そして…
今度は僕自身の力で夢を現実にするんだ

色くん…
待っててね
いまにあの女から
解放してあげるから
だって
あの女は
色くんには
似合わないもの
そうしたら
色くんは
ずっと私の
ものになるの

一階空き教室
ああ
どうしよう
あんなこと
言っちゃったけど
うまく
言えるのか？
何言ってるんだ
決めたじゃないか
変わろうって
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
来た…
本当に来てくれた
！
ガラ
ガラ
河西さ…
お待たせ
え？

会いたかったよ色くん…
き…きみはいったい
なんで？僕の名前を…
やっぱり…色くんは覚えてないんだ
でもいいよ
なっ
だって色くんは
ちょっちょっと！
いまから私のものになるんだから

ほら
もっと私を見て
なぁ
ちょ！
色くんとずっと
こうしたかった
わたしには
色くんしかいないの
…
なに言ってんだよ
色くん…
ちゅ
ん…
なんだこの感じ
舌が勝手に
私に見せて
色くんの立派な
お●ん●ん
まって…
そこは
開けるよ
身体が動かない

すごい匂い…
これが色くんの
色くん
いま気持ちよくしてあげるね
んっ
ああ…
まってだめだって
んっ
んっ
なんだこれ
気持ち良すぎる
色くんったら
ああ
もうこんなに大きくしてそんなに気持ちいいの？
おっぱいすごい…河西さんより大きい
ダメなのに…
河西さんに言うって決めたのに
こんなの…

んん…
あっ！
ドピュ
ビクン
色くんの精●
すごくおいしい
ゴクン
ゴクン
でも…
本番はこれから
これでもっと色くんのこと
気持ちよくしてあげるね
それは
まずいって
いくよ
色くん
待てって
あああ！

やっとひとつになれたね色くん
私幸せだよ
この子…
本気で僕のこと
待てよ
この感じどこかで…
強い思い…
このテクニック
そしてこの金縛りが偶然じゃないとしたら
色くん
もっと私で気持ち良くなって
まさか?
悪魔か?

よそ見はだめ
私を見て
んっ
色くんは私のものなんだから
これからもずっと私と一緒なんだよ
他の女には絶対に渡さない
イッて
やばい…イク…
私でもっと感じて
皆瀬くん…
！
トン
トン
ガラッ
入るよ
はぁ…
河西さんだめ！

イクッ！
ドビ
すごい…
二度目なのに
こんなに
ドピ
ドピ
河西さ
邪魔をしないで
くれますか
色くんは今
私と
楽しいこと
してるんだけど
皆瀬くんはこれを見せる
ためにわたしを呼んだの？
違うんだ
河西さん
ダメだ…

河西さん
きゃ
色くん
見ているかアスモディウス…
僕は変わってみせる
色くん…どうして？
ばかな…
性交魔術は確かに発動していた…
これが愛の力…!?
皆瀬色
再びお前に興味がわいたぞ
はぁ…
はぁ…

待って河西さん
はぁ…
はぁ…
違うんだ
今更こんなの…
言い訳にしか聞こえないかもしれないけれど
昨日のこともずっと謝りたかった
怖い思いした後なのにあんなこと
本当に最低なやつだよね…
僕
ごめん…
でも
今言わないと絶対後悔すると思ったから
これだけは言わせて
僕は
河西さんが好きなんだ

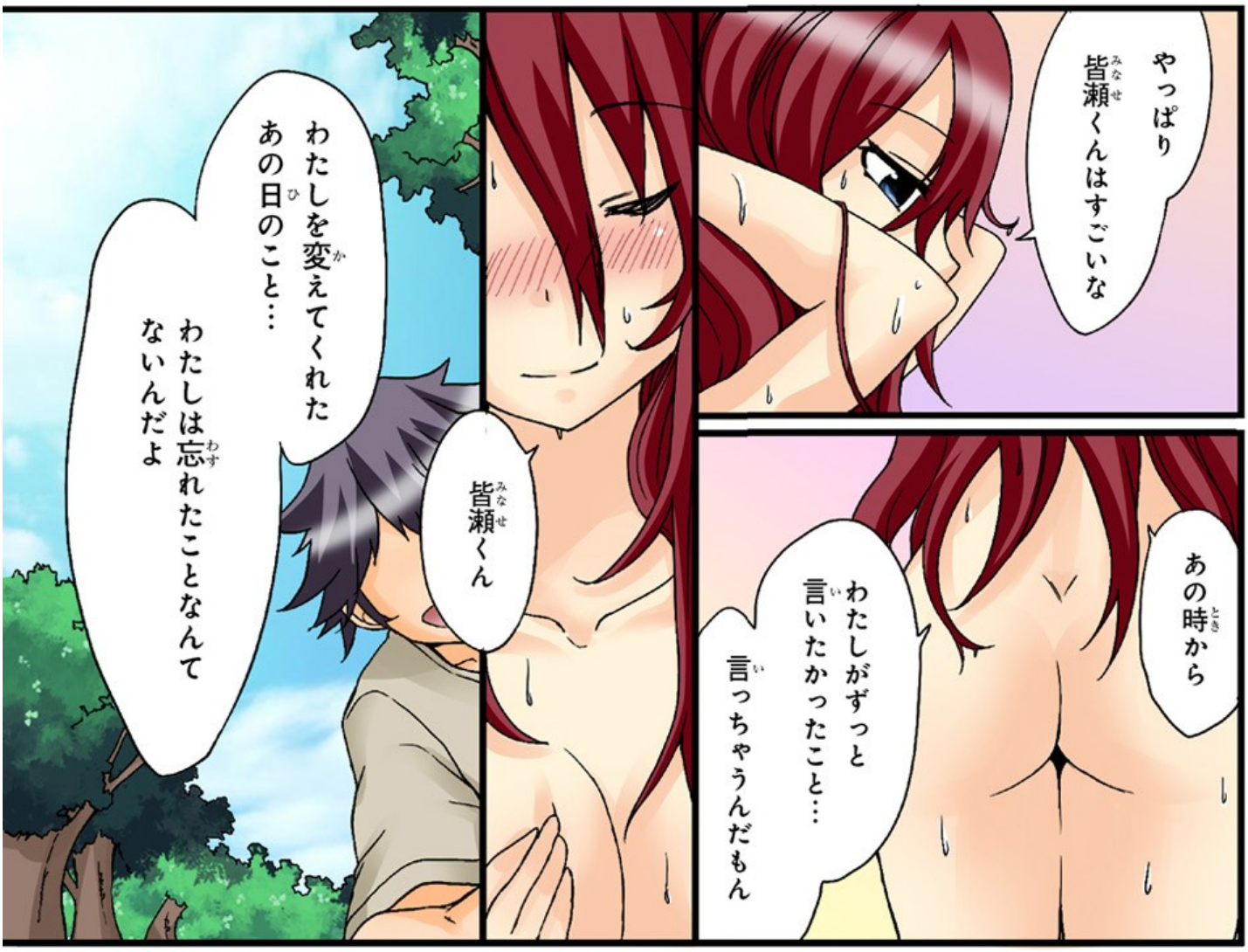
色欲 × 淫魔契約
性なる魔力でヤリホーダイ!?

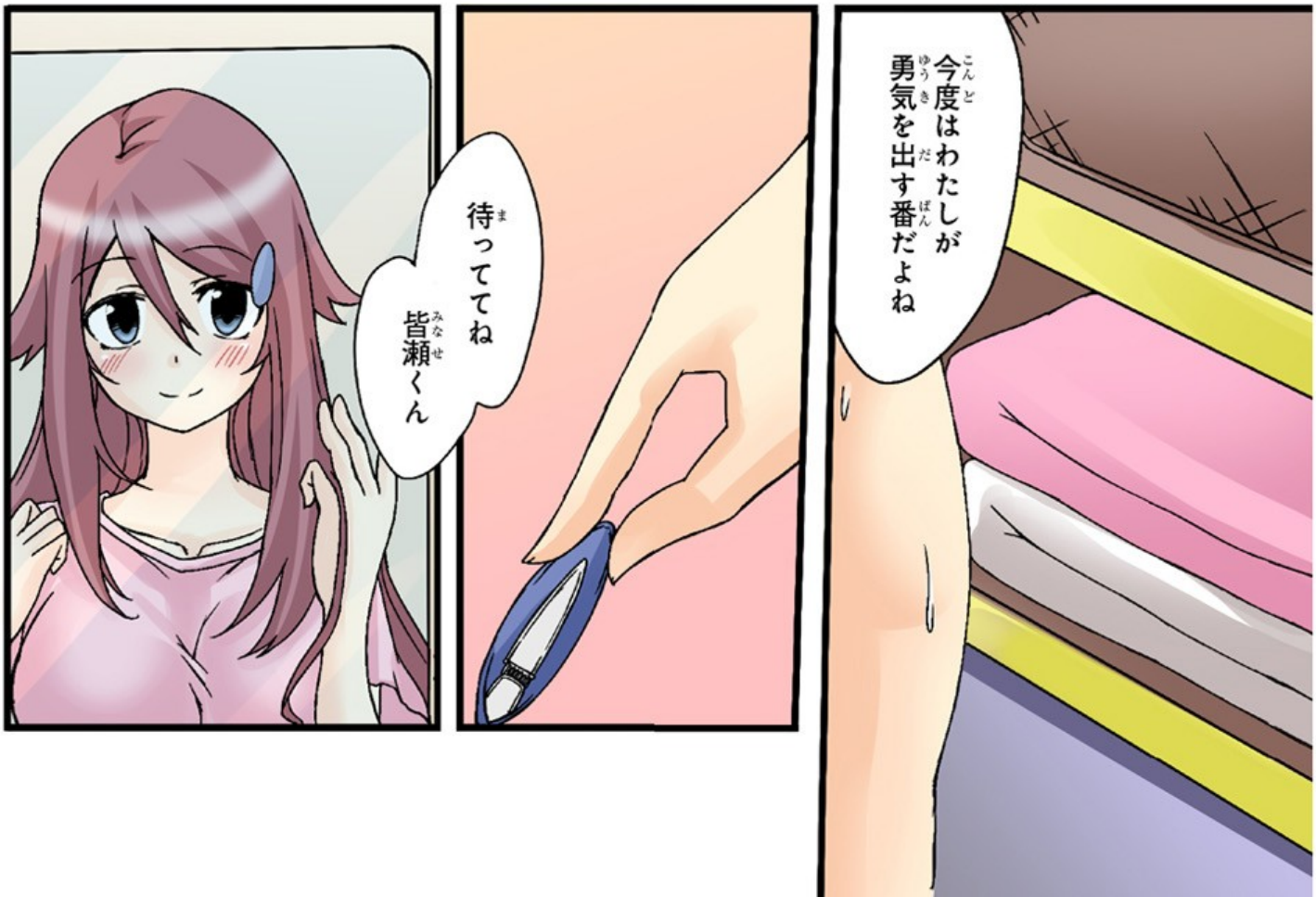
第３話

河西さんが好きなんだ
はぁ…
はぁ…
ぎゅっ
私…
ドキッ
皆瀬くん…
ビクッ
河西さん！

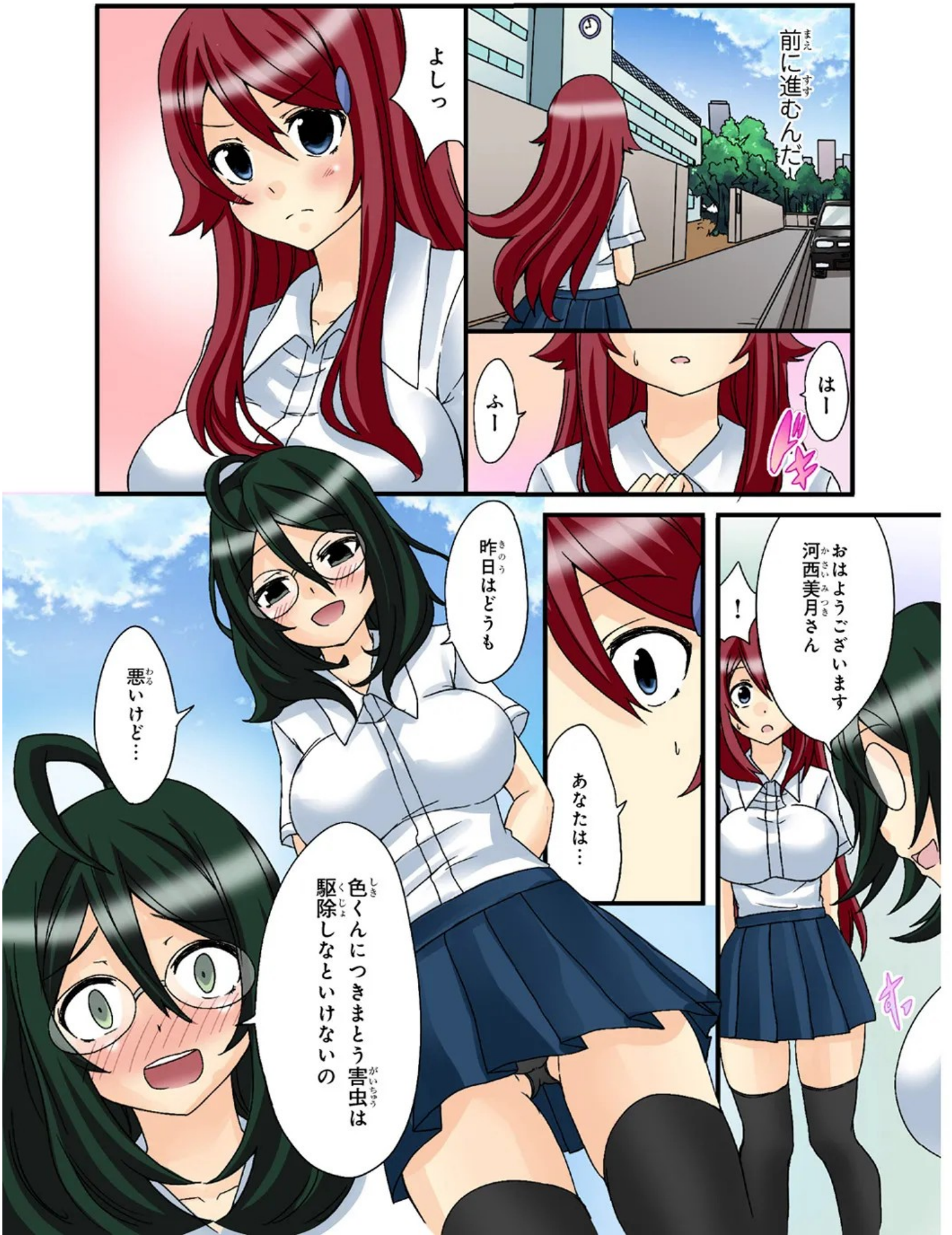
ちょっと頼みたい
ことがあるんだが
急いできてくれないか
えっ
先生
あの…今ですか？
え…
えーと
いいよ
いってあげて
皆瀬くん…
返事は明日
待ってるから
うん…
じゃあまた
明日学校で
じゃあね
なんなんだ…
この感じは

これが愛…
なのか？
おっ
あいつ…
河西美月
あんただけは
絶対に許さない
その夜


やっぱり
皆瀬くんはすごいな
あの時から
わたしがずっと
言いたかったこと…
言っちゃうんだもん
皆瀬くん
わたしを変えてくれた
あの日のこと…
わたしは忘れたことなんて
ないんだよ


今度はわたしが
勇気を出す番だよね
待っててね
皆瀬くん

次の日
2
コン
コン
ドクン
ドクン
はぁ…
眠れなくて
早く来すぎてしまった…
でも…
本当に言っちゃったんだな
河西さんにあんなこと
言える日が来るなんて
あいつのおかげ
なのかもな
答えがどうであっても
受け入れる
もう逃げない


前に進むんだ！
はー
ふー
よしっ
おはようございます
河西美月さん
！
昨日はどうも
あなたは…
悪いけど…
色くんにつきまとう害虫は
駆除しなといけないの

おはよ
おかしいな
いつもならもう
来ていいくらいの
時間なのに
河西さん…
おい
ガラ
大変だ！
なによ
そんなに慌てて
！
隕石でも
落ちるのか？
河西さんが…
校門のところで黒いやつらに
拉致られたんだよ！
ドクン
河西さん！

まっててね
色くん
色くんを狂わしてる
害虫から助け出して
あげるからね
そして
私たちは
はぁ…
はぁ…
永遠に
一緒になるの
助けなきゃ
おれだけじゃ
何も出来ないけど
性交魔術があれば！

空き教室
ガッシャン
はぁ…
はぁ…
近くにいるんだろ
アスモディウス
頼む
僕にもう一度
性交魔術を！
河西さんを助ける
力を貸してくれ！

よかろう
お前の強い想い
確かに受け取ったぞ
さあ
アスモディウス
契約を始めようか

じゃあ…
挿れるぞ
だがいいのか？
何？
もう頼らない
そう決めたんじゃ
なかったのか？
必ず
助けたいから
お前をイかせる
しかないんだ
いいんだ
今はそんな
プライドより
最善の策をとる
あっ
ああ
いくぞ
ああ！
ズブ
ズブ

あっ
すごい…なんだこの感じは
あああ
前回の時とは勢いもテクニックも全然違う…
パン パン
き…気持ちい…
いいっ！
ち●ぽすごい
こいつ…
いつの間にこんなに
ちがう…
乳首い
あっ らめっ
そういえば乳首好きだったっけか
河西美月を助けたい気持ちが身体を動かしているのか
もっと…
もっと激しく
あああ

あっ…
やめっ
あう
んん！
あぐっ
んあっ
まだか…
さっきから
締め付けがすごい
でも…
先にイくわけには…
僕は
なっ？
河西さんを
助けるんだ！

ち●ぽ
もっと奥まで
最高だぞ
皆瀬色
まったく…
皆瀬色にこんなにも
想われて
河西美月がうらやましいな
…うらやましい？
まさか…
悪魔の私が…
人間のコイツを…？
やばい…
もう
いいぞ
来い！
これが…
私の中に！
お前の想いを
すべて!!
人間の崇拝する「愛」なのか？

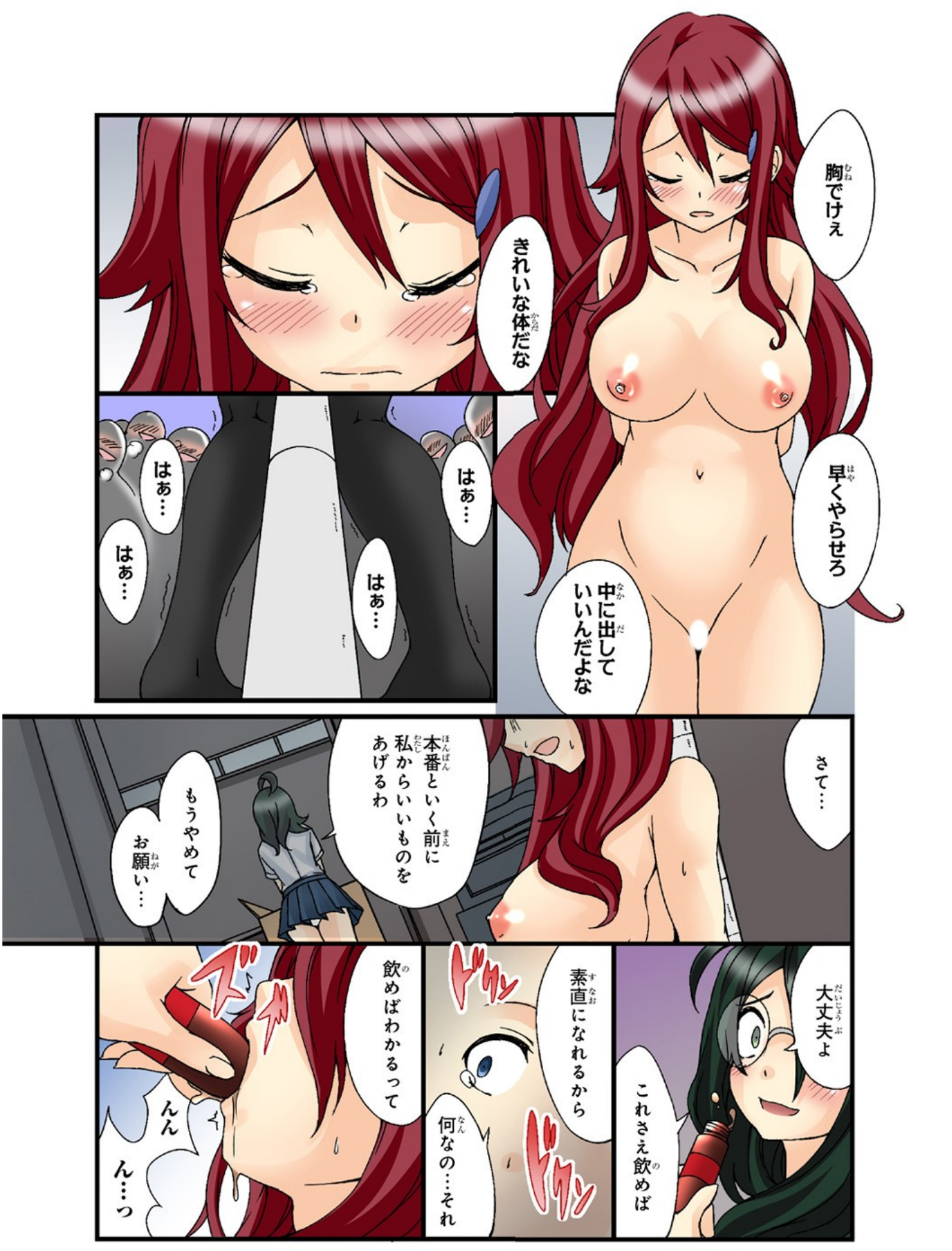
いくっ…
あ…
ああ
ゴゴゴ
合格(ごうかく)だ
ここどこ？
怖(こわ)い
助(たす)けて
ゴゴゴ
河西(かさい)さん

すごい
あの時よりも
鮮明にまっすぐ
想いが
伝わってくる
どうなってる？
こんな共鳴力
今までに感じた
ことがない
皆瀬色…
お前って
やつは…
いくぞ
アスモディウス

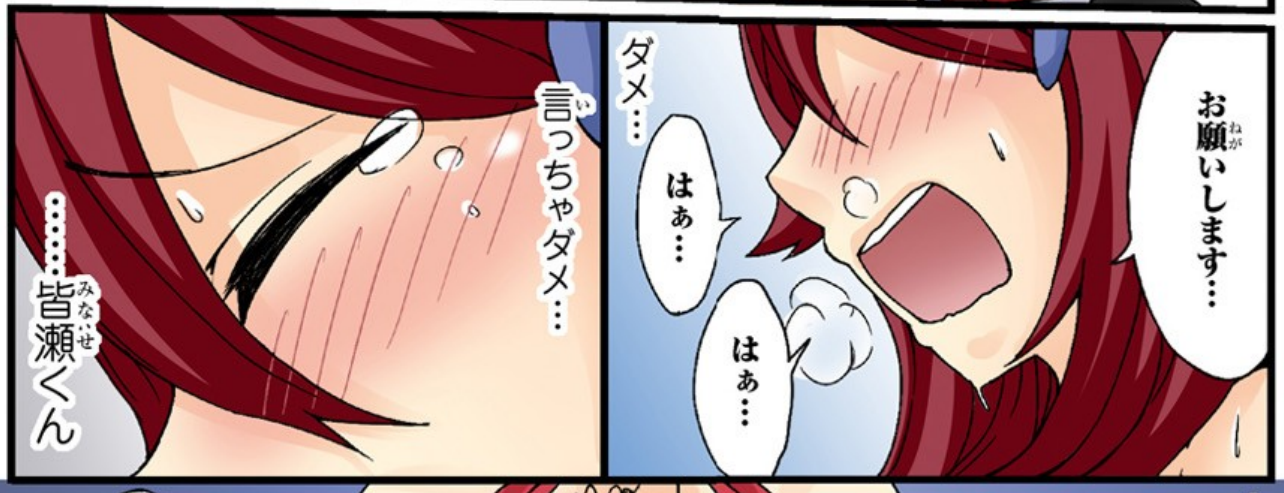
廃工場
ん…
えっ
ちょっと
何これ？
みなさーん
美月様がお目覚めですよ
動けない…!!
はぁ…
我慢できねぇ
かわいい
本当にヤっていいのか？
うそ…

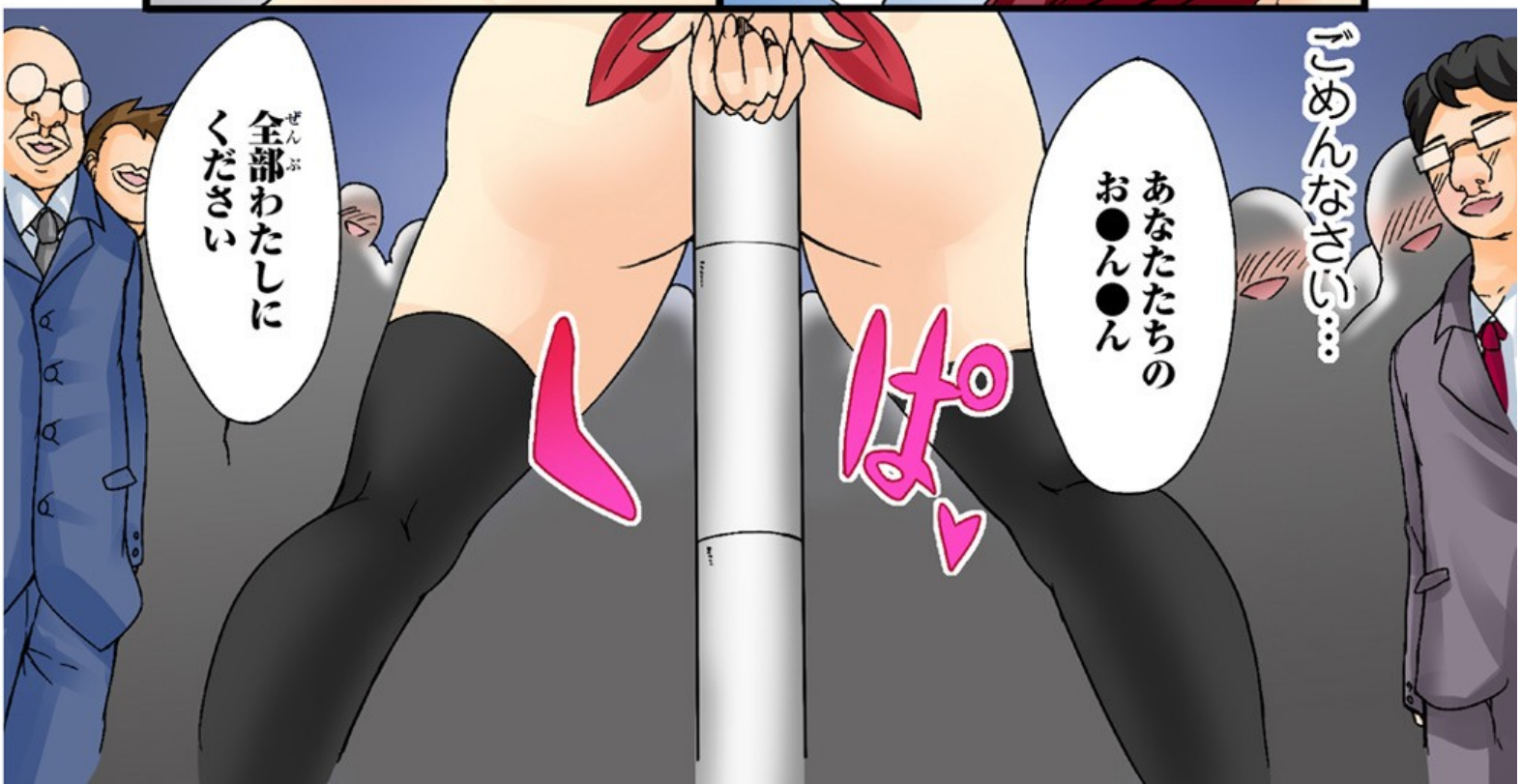
ふう…
なんなの…
この人たち
すごいでしょ
はぁ…
ふう…
はぁ…
あなたのために
集まってくれたのよ
これからあんたを
グチャグチャに
してくれるんだって
もう色くんのことなんて
これっぽっちも考えられなく
なるぐらいにね
いや…
ドクン
あんなこと…
もう
ドクン
ドクン
いやあああぁ！

んん…
おとなしくしててよ
あんたが悪いんだからね
あんたが私の色くんを奪おうとするから
んんっ！
やだっ
やめて！
いやぁあぁ！
ほら見てごらん
あんたの裸を見て興奮を抑えきれないみたいよ
ダメ見ないで
何をいってるのよ
これからが楽しいんじゃないの
皆瀬くん…
助けて…


胸でけぇ
きれいな体だな
早くやらせろ
中に出していいんだよな
はぁ…
はぁ…
はぁ…
はぁ…
さて…
本番といく前に私からいいものをあげるわ
もうやめてお願い…
大丈夫よ
これさえ飲めば
素直になれるから
何なの…それ
ドクン
ドクン
飲めばわかるって
ズ♪ズ
んん
ん…っ

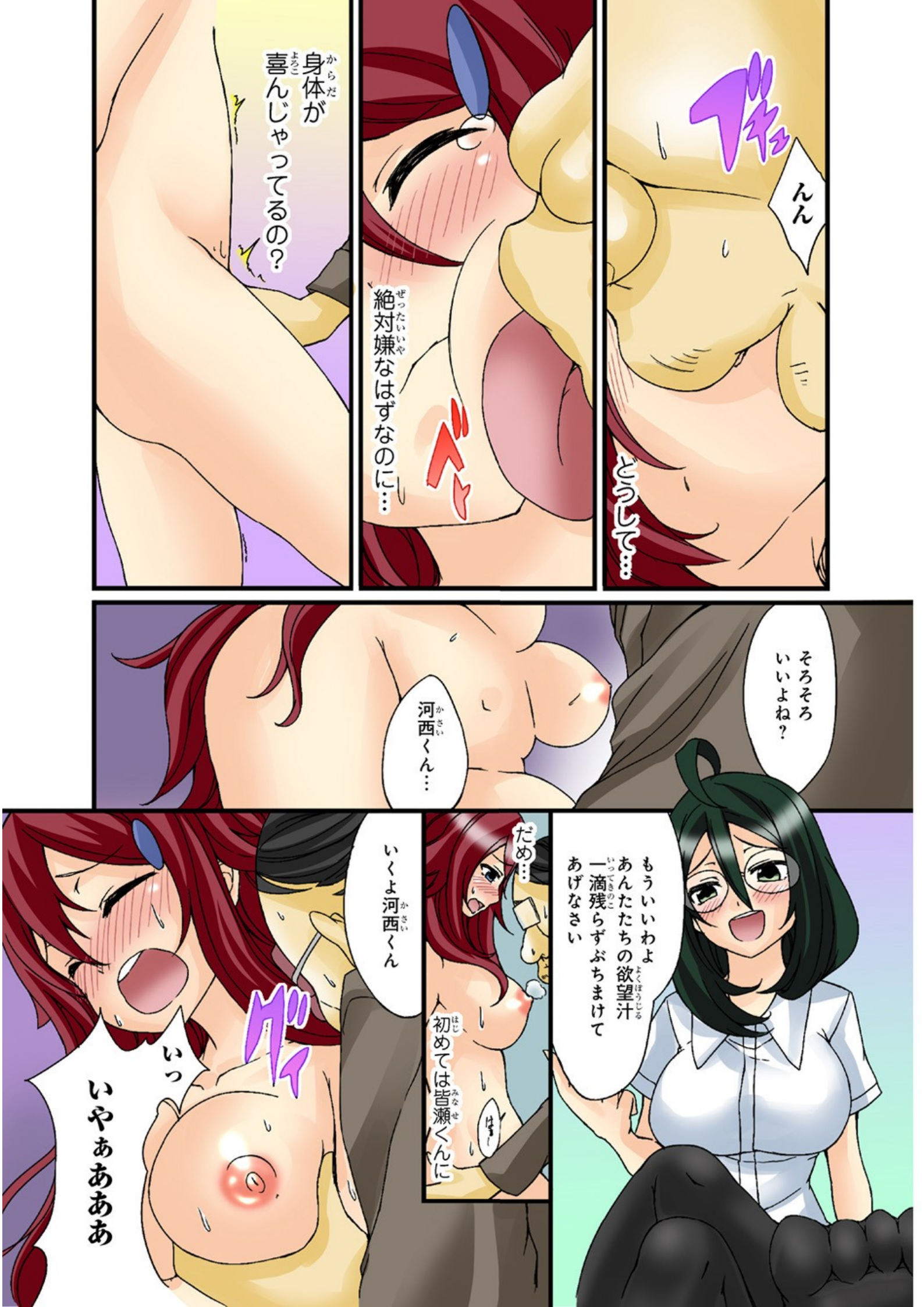
あ…
どうかな？
何これ？
カラン
強力な媚薬のお味は
熱くなってきたでしょ？
欲しくなってきたでしょ？
ねえ？
身体が…熱い
あれが欲しいんでしょ？
だめなのに…
どうして…
ちゃんとお願いしなきゃわからないよ
あ…


お願いします…
はぁ…
はぁ…
ダメ…
言っちゃダメ…
……皆瀬くん


ごめんなさい…
あなたたちのお●ん●ん
ぱ
全部わたしにください

もう我慢できねぇ
ああ
おっぱいは俺のもんだ
ああ
ちゅぶ
まだ挿れちゃだめよ
身体の隅々までしっかり撫でまわしてあげなさい
あらやだ
んっ
んん
これはもうどうなっちゃうかわからなそうね
次は僕の番だよ
うそ…
先生ずっと君に会いたかったんだよ
矢後先生？
久しぶりだね
河西くん
さぁ…
あの日の続きをしよう

はぁ…
だめ…
ムフン
こんなに乳首立てちゃって
そんなに先生と
ヤりたかったのか？
あっ！
ちが…
ああっ！
どうなんだ？
ああっ
はい！
先生のお●ん●んに
オカされるの
すごく
ドキドキしてました
まったく…
けしからん子だ
教室では優等生を
気取っていながら
一歩外に
出れば
性欲も抑えきれない
雌豚だったとはな
違う…
あの日だって
そこっ
ダメ
ホントは
内心喜んでたんじゃ
ないのか？
あっ
気持ちいいよぉ
乳首もっと！
そんなわけないのに


んん
どうして…
絶対嫌なはずなのに…
身体が喜んじゃってるの？
そろそろいいよね？
もういいわよあんたたちの欲望汁一滴残らずぶちまけてあげなさい
河西くん…
だめ…
初めては皆瀬くんに
いくよ河西くん
いっ
いやぁあああ

色欲 × 淫魔契約
性なる魔力でヤリホーダイ!?

第４話

さぁ…
お前達の欲望汁で
その淫乱娘を
満たしてあげなさい
入れるよ
いいよね
いや…
やめて…
ごめんなさい…
皆瀬くん
色くん
私やったよ
ドゴ!!
!?
矢後おおおおぉ!
えっ?
ゴゴゴ

くおぉ
!?
……
……
カッ
カッ

大丈夫？
美月
皆瀬くん
そんな…
どうして
大丈夫だよ
うん

どうして…
私は色くんのために…
篠崎さん…
おれが好きなのは…
やめて…
美月だけだ…
ドクン
だからおれは…
やめて
いやぁ!!
もう聞きたくない!
何があってもこの子を守る
プ
ツン
!!

違う…
私の色くんは
そんなこと言わない
これは…
？
そうか…
お前も私と色くんの
仲を邪魔する害虫か
害虫は…
どうすれば
いいんだっけ？
あ…
そうだった
消せばいいんだ
お前達！
今すぐそいつを
処分しろ！

美月はここにいて
皆瀬くん
大丈夫
必ず助ける
うおおおお
ゴゴゴ
なんて愚かで醜い生き物なんだ
自分の欲望のために他人をどうとも思わない…
お前らはもう人間じゃない
力を借りるぞアスモディウス
いけ…皆瀬色

ひぃっ！
パン
うわっ
なんで…
うわぁ
う…
う…
なんでなんで
……
なんで……
！
そうだ…
ぎゅっ
あいつさえいなければ

私は
結ばれなくちゃいけないの
色くんにふさわしいのはあいつじゃない
おおおお
この私だぁ！
ダッ
!?
あいつ…
まずいぞ色！

なっ…
皆瀬くん
ぐう…
どうして…
カラ
カラ
ポタ
ポタ
言っただろ…
必ず助けるって
まったく…
いい顔になったものだ

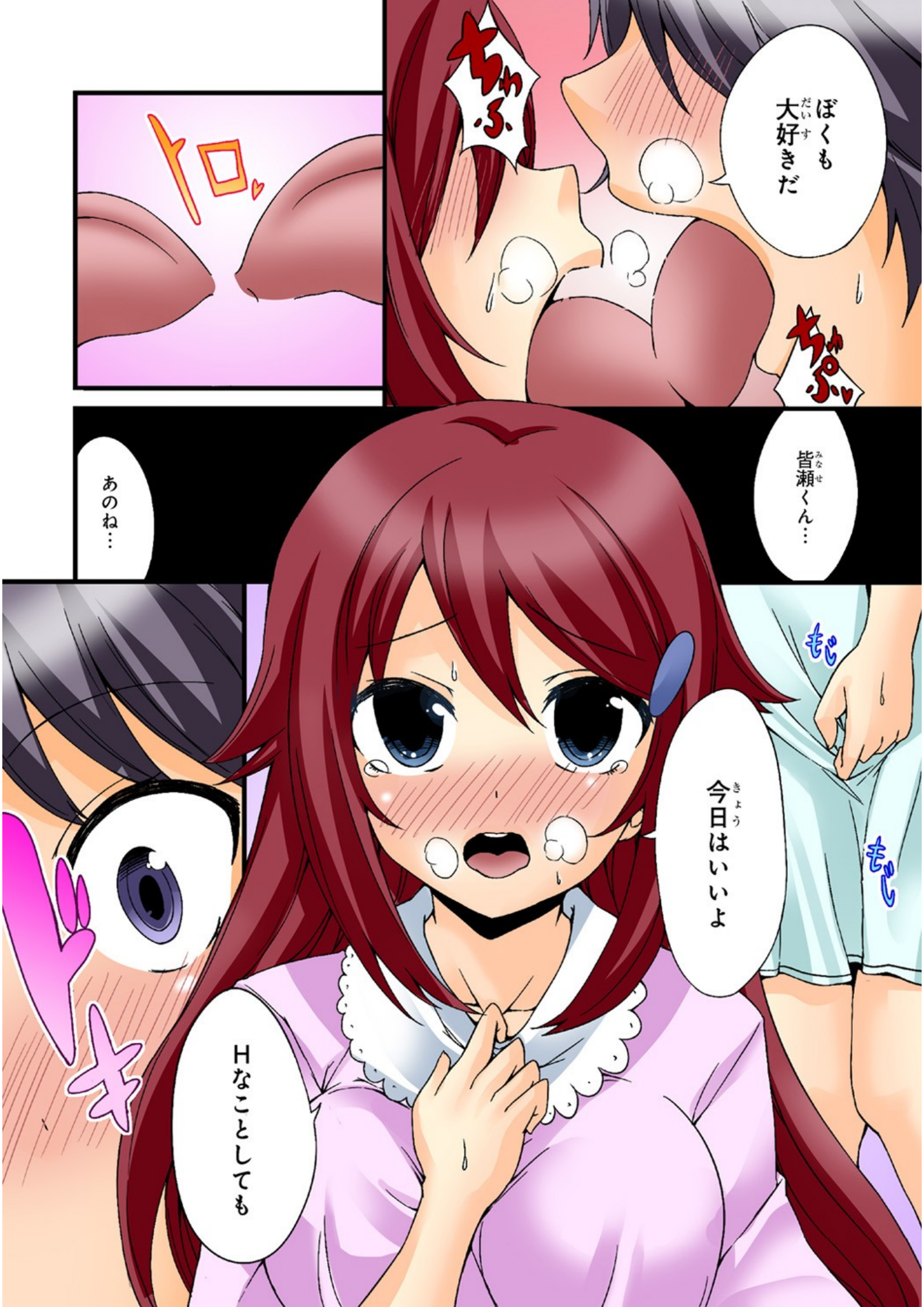
大丈夫
皆瀬くん手が…
皆瀬色
つい先日までヘタレ童貞だったあいつが…
これが想いの力
ピーポー
愛の強さか
警察だぁ！
ほら行くぞ
おとなしくしろ
あ…
私…
いつの間にこんな…

篠崎さん
色くん…
あれから君のことを調べたんだ
僕が忘れているだけなのかもって思ったから
そしたら小学校の卒業アルバムで君を見つけたよ
でもね…
僕たちは一度も同じクラスになってないんだ
話したことなんて一度もないはずなんだよ
そんな…
それに僕は臆病者だから
女の子に声をかけることなんて出来なかったし
ついこないだまでは
ふん

そっか…
ごめんなさい…
私…
もう
終わったんだ
幸せになってね
色くん
それと…
河西さん
うん

美月の家
ごめんね…
おぶってもらっちゃって
えーっと
重くなかった？
いや全然全然
これでも
鍛えてるから
あっ！
ドキ
グイ
バサ

助けにきてくれて
ありがとう
皆瀬くん
昨日の返事…
長いこと
待たせちゃったけど
私も…
ちゅっ♡
皆瀬くんのことが
好きです
！


ぼくも大好きだ
ちゅふ
ちゅぷ
トロ
皆瀬くん…
あのね…
今日はいいよ
もじ
もじ
ドキ
Hなことしても

河西さん
やっ
そんな急に！
ちゅぶ
ああ！
すごい！
河西さんの身体
すごく感じやすくなってるね…
Hな子だ
ちゅぷ
これは！
違うの！
コリ
コリ
ほら
またイった
ビクン
ビク
あうっ！

ほら
こっちも もう
こんなに濡れてる
ダメっ!
そんなにしたら
ビクン
ビクン
イク
また…
よし
はぁ…
こんだけ
濡れればいいかな
はぁ…
パンツ
おろすよ
す
う…
うん
見て…こんなに
びしょびしょだよ
も
わ

うわ…
綺麗だよ河西さん
やだ…
あんまり見つめないで
恥ずかしいよ
本当にいいの？
…うん
じゃあ入れるよ
あっ
あっ
くる…
皆瀬くんのが

ズ
きた！
ブ
あぁあ
大丈夫？河西さん
うん
ちょっと痛いけど…
それよりも皆瀬くんとつながってることが嬉しいから
ぼくも嬉しいよ
いいよ動いて
いくよ
ずぷ
あっ！
あっ！
ずぷ
ずぷ
あっ！

河西さん
あっ
すごいよ
皆瀬くんの
わたしの中で…
どんどん
大きくなってる
皆瀬くん
皆瀬くんは今も昔も
臆病者なんかじゃないよ
だってあの日皆瀬くんは
1人でいた私に声を
かけてくれたもん
あの日？
覚えてない？
この髪留め
昔皆瀬くんが
わたしにくれたんだよ
!!

そうだ…
小学校のとき
公園にいつも一人で
いる女の子がいた
その眼はいつも
可哀そうで…
いつかその姿を自分に
重ねるようになって
ぼくはその子を
ほっとけなくて
これあげる
一緒に遊ぼ
結局その後すぐ
引っ越しちゃったけど
河西さん
そうか…
あの時の女の子が

あの時皆瀬くんが声をかけてくれなかったら私は変われなかった
皆瀬くんのやさしさが私を救ってくれたの
だから今度は
私が皆瀬くんを幸せにする
きて
皆瀬くん
いや
んっ
今度は一緒に幸せになるんだ
ぱん
あっ
ぱん
あっ！

だめだ…
河西さんの中
気持ち良すぎて
もう
奥まで
届いてるよ
いいよ…
一緒にイこう
皆瀬くんの精液
全部私の中に
出していいよ
河西さん
愛してる！
わたしも！

保存完了…
いいデータが取れたよ
お前たちは色欲を凌駕し純粋な愛へと昇華した
しゅ
ありがとな皆瀬色
ズキュン♡
これからもよろしくね

色欲 × 淫魔契約
性なる魔力でヤリホーダイ！

ゆきうさぎ。

© ゆきうさぎ。／秋水社ORIGINAL